

# 北海道浮魚ニュース

平成 23(2011)年度 19 号

2011 年 10 月 7 日

道総研 釧路水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎道東太平洋サンマ南下期調査結果

### 漁獲尾数は昨年よりも少なく、魚体は中型魚主体で大型魚混じり

北辰丸(釧路水産試験場試験調査船)で行ったサンマ南下期調査の結果をお知らせします。今回の調査は、道東太平洋海域へのサンマの南下状況を把握することを目的に実施しました。

調査期間：2011 年 9 月 27 日～10 月 5 日

調査海域と調査点 (図 1)：道東太平洋 (40° 00'N～42° 40'N, 144° 00'E～147° 00'E) の 14 調査点 (漁獲調査は 5 点)。

調査方法：CTD による海洋観測及び 9 種類の目合 (22,25,29,37,48,55,63,72,82mm) の流し網を用いた漁獲試験を実施しました。

### 1. 表面水温(図 1, 表 1)

各調査点の表面水温は 14.3～18.6℃の範囲でした。沿岸側の St. 1 で最も高い値を示しました。東側の 200 海里ライン沿い (St. 1～7) では、サンマの分布に好適な 15℃前後よりも若干高い水温域が広がっていました。西側の十勝～釧路沖 (St. 12～15) では 15℃前後の低い値でした。

### 2. 漁獲尾数と CPUE(図 1, 表 1, 表 2)

流し網調査の結果、サンマの総漁獲尾数は 1,678 尾でした。また、CPUE\* (流し網 1 反あたりの漁獲尾数) は 23.8 尾でした。これを 2001 年以降の同調査結果と比較すると、漁獲尾数、CPUE とともに中位を示す値でした。サンマの分布状況としては、襟裳岬沖の水温 14.6℃の海域に最も多く分布し、次いで親潮第二分枝に繋がる St. 5 で比較的多い傾向にありました。

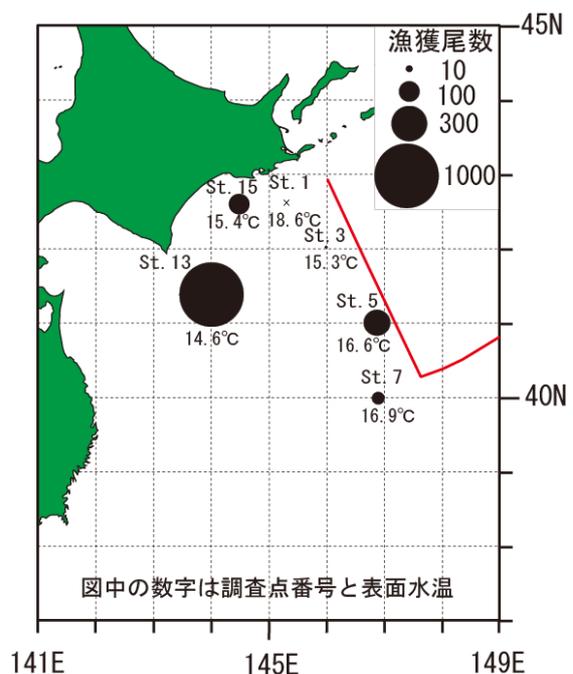


図 1 2011 年サンマ南下期調査結果

### 3. 体長組成(図 2)

流し網で漁獲されたサンマの体長範囲は、17～34cm 台でした。漁獲尾数の多かった襟裳岬沖では、中型魚が主体で大型魚混じりでした。東側の St. 5, 7 では大型魚主体となっていました。調査点全体の合計では全漁獲尾数に対して中型魚の割合が多く、52%を占めていました。特大・大型魚の割合は 38.6%であり、昨年 (50%) よりも低い値でした。

\*目合 29,37,48mm の漁獲尾数から算出。1 反は 30 間切りで換算。

表1 2011年サンマ南下期調査結果概要

※目合22.25mm各1反(30間切り換算)、29.37.48mm各4反(30間切り換算)、55mm2反(30間切り換算)

St.	調査日 (揚網日)	位置		水温(°C)			サンマ漁獲尾数								
		北緯	東経	0m	50m	100m	目合22mm	25mm	29mm	37mm	48mm	55mm	63mm	72mm	合計
1	9月28日	42-34	145-20	18.6	5.4	2.3									0
2	9月28日	42-20	145-40	17.0	4.8	2.6									
3	9月29日	42-01	145-59	15.3	9.9	9.2			1	2	1		1		5
4	9月29日	41-30	146-30	17.1	11.0	9.7									
5	9月30日	41-00	146-49	16.6	4.4	1.7			1	95	70	9			175
6	9月30日	41-00	145-50	17.3	12.7	9.9									
7	10月1日	41-01	144-50	16.9	10.2	8.6			1	41	19		1		62
8	10月1日	41-00	143-55	15.7	5.9	4.3									
9	10月1日	41-00	143-00	18.3	13.4	10.9	時化のため操業中止								
10	10月2日	41-20	143-25	17.0	6.5	2.9									
11							時化のため調査中止								
12	10月3日	42-00	143-55	15.4	7.1	5.0									
13	10月4日	42-20	144-00	14.6	13.4	8.9	1	27	565	689	50				1,332
14	10月4日	42-30	144-15	14.3	14.5	8.2									
15	10月5日	42-36	144-31	15.4	7.4	3.0	2	8	45	32	17				104
合計							3	35	612	858	158	10	1	1	1,678

表2 サンマ南下期調査における漁獲尾数とCPUEの経年変化

	2001年	2002年	2003年*	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
漁獲尾数(尾)	8,124	2,168	2,425	168	1,851	9,005	316	200	6,508	2,157	1,678
CPUE(尾/反)	112.2	40.8	185.3	2.0	21.3	124.2	3.5	2.9	58.0	22.0	23.8
漁獲調査点数	6	4	1	7	8	6	7	5	8	7	5

\*2003年は荒天、地震等により、漁獲調査点は1点のみであったため参考値。

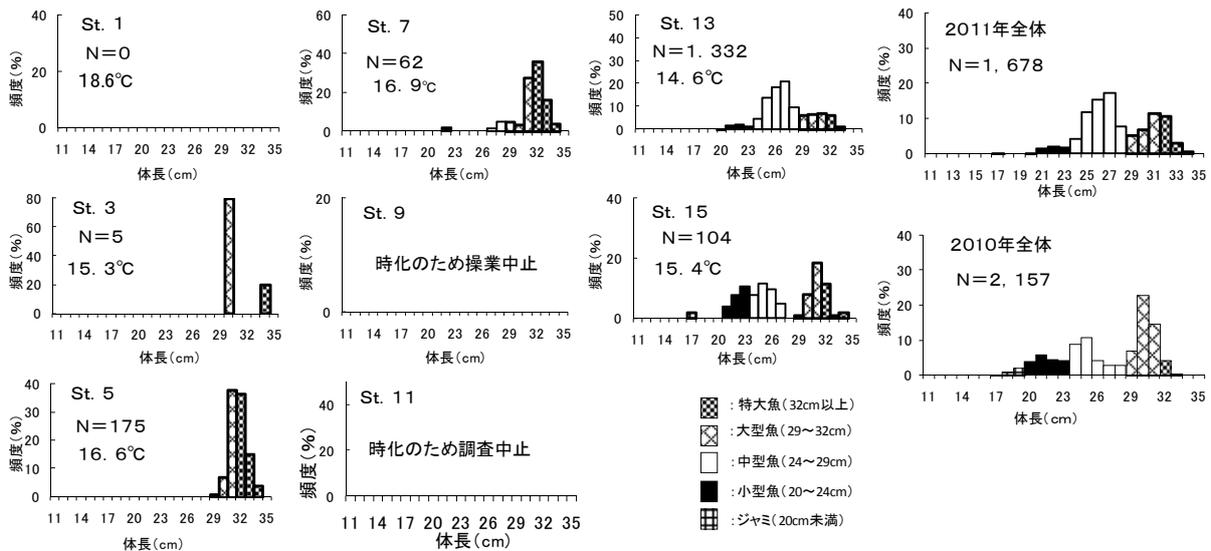


図2 2011年サンマ南下期調査におけるサンマの体長組成(Nは漁獲尾数, 温度は表面水温)

#### 4. まとめ

この時期のサンマは、親潮水(冷水)の中を北方四島周辺から北海道・本州方面に向けて南下します。今回も漁獲調査点は、例年好漁場が形成される親潮水と北上暖水の潮境付近に配置しました。表面水温をみると、十勝沿岸域ではサンマの分布に好適な水温域となっており、襟裳岬沖では最も高い分布量を示しました。例年親潮第二分枝の尖端付近(St. 5、St. 7)に漁場が形成されますが、まだ水温が若干高い状態にあり、分布量もそれほど多くはないと思われます。また、昨年と同様に今年も初漁日から不振が続いていました。9月下旬に入ってから、やっと道東沖にも漁場が形成される様になってきています。今回の調査結果では、襟裳岬沖で漁獲尾数が最も多く、道東沖から襟裳岬沖にすでに南下している群れが見られました。

(文責：釧路水産試験場 調査研究部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)